



令和3年1月15日

# 親睦会だより

2020年は、コロナで始まりコロナで終わる1年でした。会員の皆様、コロナ感染予防での年末年始に大変ご苦労されさらに緊急事態宣言によりお疲れのこととお察しいたします。



親睦会も活動を少しずつ再開する予定でしたが11月より感染が拡大し残念ながら「新春のつどい」は中止といたしました。

皆様へご迷惑をおかけし大変申し訳ございません。

親睦会としましても、今後の感染状況を注視し新たな活動の模索、情報が提供できるよう努めてまいりますので親睦会へのご協力をお願い申し上げます。

親睦会会長 後藤 勝義

## 親睦会報告

11月27日(金)「小江戸川越ガイド付き名所巡り」を開催しました。参加者19名

コロナ禍での開催のため、現地集合、現地解散と従来のバス旅行とは異なり初めての試みでした。

川越駅構内の「川越駅観光案内所」に9時50分集合、コロナ感染防止のため検温、手の消毒を行い参加者全員問題ありませんでした。

赤いジャケットがトレードマークの川越市SCガイド2名での案内。2班に分かれて小江戸川越の町散策へ。

川越駅⇒川越八幡宮⇒川越工業高校⇒仙波東照宮⇒喜多院⇒熊野神社⇒蔵造りの街並み⇒時の鐘⇒昼食



### 「川越八幡宮」

約1000年の歴史。後一条天皇の時代の長元3年(1030年)に、甲斐守源頼信によって創祀されたと伝わる神社。境内には、縁結びの夫婦イチョウや、足腰健康の神様で知られる民部稻荷神社、眼病平癒の目の神様、厄除にご利益のある桃神様など見どころが多い。



「仙波東照宮」徳川家康を祀る東照宮のなかでも日光、久能山と並んで三大東照宮といわれる。創建は寛永10年(1633年)で、元和3年(1617年)に家康の遺骸を久能山から日光



へ運ぶ途中、喜多院で法要が営まれたことにより建立された。現在の建物は川越大火ののち、寛永17年(1640年)に完成したもので、国指定の重要文化財。



**「喜多院」**川越大師喜多院は、五百羅漢や正月3日のだるま市(初大師)で広く知られる。天長7(830)年、淳和天皇の勅により慈覚大師円仁が

勅願所として創建した。寛永15(1638)年の火災後の再建時には、江戸城内の家光誕生の間や春日局化粧の間が、喜多院の書院、客殿として移築。



**「熊野神社」**「おくまんさま」と呼ばれ親しまれ開運・縁結びの神様として信仰されています。主祭神の「イザナギノミコト」は、古事記に最初に出てくる夫婦の神様なので、「縁結び」にご利益があるといわれています。熊野神社の神様にお仕えする八咫鳥(やたがらす)をモチーフとした、日本サッカー協会公認の御守である「勝守」を授与しています。



**「時の鐘」**時の鐘は、寛永4年から11年(1627年から1634年)の間に川越城主酒井忠勝が、城下多賀町(いまの幸町)に建てたものが最初といわれています。現在の鐘楼は、明治26年(1893年)に起きた川越大火の翌年に再建され3層構造で、高さ約16メートル。江戸時代の初期から、暮らしに欠かせない「時」を告げてきた川越のシンボルです。現在、1日に4回(午前6時・正午・午後3時・午後6時)鐘

の音を響かせています。



ガイドさんの説明で、個人での街歩きとは違い楽しく散策できました。また各散策先に消毒液、昼食先も斜め対面での食事と感染防止への配慮がされ安心して参加できました。

親睦会から初めての現地集合、現地解散による小旅行で感染者もなく無事に終わることができました。今後もコロナの状況等を見ながら新たな企画を提供出来るよう努めますのでその際は、是非とも参加願います。